

会場 静岡市清水文化センター 主催・書道研究岳朋会主宰Ⅱ広住花岳・読売書法会幹事、廣住翠豊・東洋書芸院同人員  
郷土の近代短歌シリーズⅢ 北原白秋を書く 出品目録

詩人、歌人・北原白秋Ⅱ芸術院会員(一八八五〜一九四二) この道、からたちの花、砂山などの童謡の作詞者として人々に親しまれている白秋が始めて清水に来たのは国柱会、田中智学の招きで父母、妻子と共に大正十三年(一九二四)一月五日から九日まで三保貝島、最勝閣に滞在。この時、羽衣の松、竜華寺等を訪れ、長歌一章、短歌、百七十三首を詠んでいる。二回目は、「ちやつきり節」作詞の為、昭和二年五月下旬から六月にかけて。このとき新駿河節と十七夜山千手寺の狐塚をうたった狐音頭も作詞。

本展ではこの内、二十一首を努めて漢字仮名の変換を行わず「漢字かな交じりの書」として小画仙紙半切や全半懐紙に書き、軸額装にして展示。その他、漢字、現代書、かな、臨書、十四点併せて三十五点展示。

▲テーマ作品

1. あかあかと葦火たく屋も小夜更けて汐霧り来らし沖つ千鳥よ 小夜
2. 月わかく糠星満てりかくばかり清しき夜空我は見なくに 浅宵舟行
3. 清見潟夕照ひろし満潮の潮騒のかぎり舟の榜ぎつつ 不二の夕照
4. 松ぼくりひろふ童が片言のいつ果つるらむ童として居る 御穂宮
5. 皆行きぬ吾子よいそがむ汝を待つとかの松陰に母の立てるに 御穂宮
6. 朝ぼらけ不二の尾の上のる雲の紫明うなりまさるなり 不二暁色
7. 朝びらき明けゆく不二の大前に網曳き舟榜ぐ三保の崎はも 不二暁色
8. 潮ぐもり春の雨間に榜ぐ舟の音おこりて沖べさす身ゆ 天にこもる
9. ひさかたの天つをとめがゆり掛けし羽ごろもの松はこれのこの松 羽衣伝説
10. さざら波来寄る濱邊の朝光は松の間あるき明るかりけり 午前の散策
11. ほのしろき浅夜不二なれ帆柱の高きは青き燈をぞ点けたる 浅宵舟行
12. 大海の晒すしら玉清けみと手には揺りつつ遊ぶ子ろはも 三保の松原
13. 遊び足り楽しききはも陽炎の燃えて跡なし濱の長手に 三保の松原
14. 藁すだれ掛け干す浦の日たむろは海苔とる蟹がやすらひどころ 午前の散策
15. 松ぼくりしじに蹴あてつ松原や羽衣の松に行くはこの道 御穂宮
16. 風速の三保の砂やま清しくて遊ぶにはよき玉敷きにけり 三保の松原
17. 高き屋にのぼりて仰ぐ星の座のいや遙るけくも間近なるかも 星宿觀望 夜、迎晨台にのぼる
18. 海苔粗朶に汐の煙立ちて寒き夜は地酒もがもと父の宣らすに 小夜
19. 松風のさやけき聴けば生まれ来しをさなき私の縁おもほゆ 小閑 父母無聊なり
20. まことにも清し松原 天馳けて舞ひ下る翼のけはひこそすれ 羽衣伝説
21. 風速の三保の浦廻やこの宮にかかげし絵馬は皆船の絵馬 御穂宮

▲テーマ外作品

1. 夢 魂 額 8. 深山龍洞先生の歌 横披
2. 深山 帖 帖 9. いにしへ帖 帖
3. 愛 額 額 10. 和歌二首 額
4. 報 額 額 11. 實 額
5. 米元章臨蜀素帖 額 12. 王鐸 臨擬山園帖 額
6. 臨関戸本古今集 折帖 13. 花 見 折帖
7. 歐陽詢 臨夢奠帖 折帖 14. 日課心経 冊

\*参考資料 ・清水と文学 清水文学散歩の会編刊 昭和四十年・清水・静岡の近代短歌を書く 書道研究岳朋会 平成九年  
・白秋全集 8巻 30巻月報 北原白秋地方民謡集編 岩波書店 昭和六〇年